

第2学年 国語科学習指導案

平成29年11月2日(木) 1校時
児童 2学年 6名
授業者 東 淳一

【学習指導要領での位置づけ】

- ・自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。

【B(1)イ】

- ・語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。

【B(1)ウ】

- ・句読点の打ち方や、かぎ（「 」）の使い方を理解して文章の中で使うこと。

【伝国(1)イ(オ)】

1. 単元名 「絵を見てお話を作ろう」(東京書籍 二年下)

2. 単元について

○単元観

本単元では、3枚の絵を手がかりに、それぞれの場面の様子を想像して物語を書く活動を設定して

いる。3枚の絵のそれぞれの場면을想像して書くだけでは物語にはならない。3つの場面を関連付けてとらえ、場面ごとの人物の行動や会話、出来事につながりが読み手に伝わるように書くことで物語となることを学習していく。

そのために、まず、構成を考える。構成を考えることによって自分の考えを明確にする。そして、事柄の順序に沿いながら文章の始めから終わりまでを内容のまとまりごとにいくつかに分けて配置することや、「はじめ」「中」「おわり」等の構成があることも意識していく。また、記述においては、自分の考えが明確になるよう語と語及び文と文との続き方を考える。前後の語句や文のつながりを大切にし、一文の意味が明確になるように続き方を考えるとともに、離れたところにある語と語や文と文のつながりについても考える。あわせて、助詞を文の中で正しく使うことや句読点の打ち方やかぎ（「 」）の使い方も理解し文章の中で使うことができるようにすることで、作文や日記にとどまらず、他教科での書く活動などに幅広く生かされることが期待されるものである。

○児童観

本学級の児童も、この年頃の子どもらしく空想を広げてよく遊んでいる。休み時間には友だちと戦隊物のヒーローになったり、動物の真似をしたりして過ごすことも多い。しかし、これらは模倣遊びであり文章に書きあらわした経験は全くないと言っている。

児童はこれまで、「ことばで絵をつたえよう」や「じゅんじょよく書こう」の学習を通して順序を表す言葉や文の構成を学んできた。そうした学習の積み上げの中、書くことへの抵抗感はずいぶん少なくなった。行事の感想や作文、日記なども示された量は書くことができるようになってきた。しかし、これまでの学習が十分に身につけさせているとはいえない。例えば、「じゅんじょよく書こう」の学習では、メモをもとに構成を意識しながら書く学習に取り組み、教科書の例文に沿って、順序を表す言葉はかなり使えるようになってきた。しかし、書き進む中で、メモをとっているにもかかわらずメモにはない不必要な事柄を盛り込んだり、出来事を羅列するだけで気持ちをうまくつなげながら書くことができなかつたり、効果的な会話文の使い方ができなかつたりする状況が見られた。

○指導観

本単元の指導においては、第一次で、リンゴをとりに行くくまとうさぎの絵を提示し、絵を見て場面の様子を想像しながら、物語を作っていくという課題と学習の流れを確認する。

第二次では、物語を作っていく手順と方法を学習する。まず、リンゴをとりに行くくまとうさぎの絵を提示し、吹き出しにそれぞれのことばを書かせ場面を想像させる。その後、①と③の絵

と文を手がかりに②の場面を想像し、物語にするための構成や接続表現、会話文などの使い方を学習し、つながりを考えながら物語として完成させる。児童一人一人の想像を生かしながら、場面と場面、会話文と会話文等が無理なくつながっているかを、記述したワークシート等で繰り返し確認させ、つながりを意識できるように指導する。次に、うさぎとりすとあひるの登場する3枚の絵を提示し、同様の手順で物語を作らせる。

第三次は、でき上がった作品を披露しあい、感想や意見を交流する時間を設けることで、より良い物語となるよう自分の作品を振り返らせる。

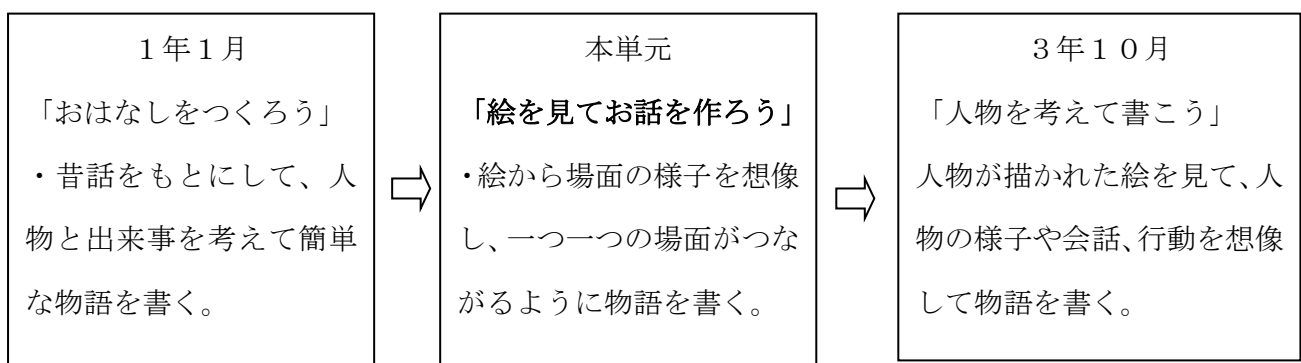
本時は、うさぎとりすとあひるの登場する3枚の絵を提示し物語を作っていく。しかし、前段のくまとうさぎがリンゴを取りに行く話とは違い、3枚の絵全てに会話がかかれていないため物語の展開が見えづらい。逆に言えば自由に想像を広げることが可能である。そこで、うさぎとりすが何のためにあひるの所に行ったのか考えさせることによって物語の粗筋を組み立てさせる。そして、それに沿った会話文を考えさせることでつながりのある物語に繋げていく学習を行う。その際、子どもたちは自分が想像した粗筋とは関係のない事柄を書くことも予想される。そこで、粗筋を短冊に書いて掲示し明確にしながりに沿った会話文を考えさせるようにする。そして、発表を通して気づいた点を交流しあい、より良い物語につなげていくことを目指す。

○研究テーマとの関連

「一人ひとりが主体的に学び、ともに高め合う児童の育成」の達成向け、学習リーダーを活用しながら学習を進めている。国語科と算数科ではほぼ毎時間活用している。国語科においては物語文や説明文等の「読む」単元は、授業の展開をパターン化し、経験を積むことで上手にできるようになってきている。しかし、それ以外の「話す・聞く」「書く」の学習場面ではパターン化が難しく戸惑う場面が見られ教師主導になることも多い。授業展開の中でのリーダーと教師の役割分担を明確にすることが重要になってくる。2年生という発達段階を考えても授業の前半部はリーダーとしての役割をこなせるが、児童それぞれが意見を出し合う場面でのリーダー役は難しさがあるため教師の補助を適宜入れていきたい。また、ともに高め合う児童の育成に向け、とも学びではペアやグループ学習を取り入れてきた。「こんなことがあったよ」や「じゅんじょよく書こう」の単元では、伝えたいできごとや順序、様子を詳しく書くことを学習し作品を見せ合い付箋に気のついたことを書き交流を図ったが、感想や質問が中心となってしまう深い意見交流にはつながらなかった。作品をみる視点の提示に弱さがあったものと思われる。今後、意見交流を深めるために、視点を明確にし、掲示するなどして常に視点を意識した意見交流となるよう配慮していく。

本単元では、絵を見て想像を広げ、語と語、文と文とのつながりを考えながら会話文等を上手に盛り込み物語を作り上げる。毎時間、だれが、どこで、何をしたのかを明確にしながりにつながりを確認し学習を積み上げていく。

3. 単元の関連



4. 単元の目標

○絵から場面の様子を想像し、文と文との続き方に気をつけて、一つ一つの場面がつながるように物語を書くことができる。

5. 単元の評価規準

〈国語への関心・意欲・態度〉

・絵から想像したことをもとに物語を書くことに関心を持ち、進んで取り組もうとしている。

〈書く能力〉

- ・絵を見て想像を膨らませながら、事柄の順序に沿って話の筋を考えている。
- ・場面の様子がよく分かるように、人物の行動や会話のつながりを考えて書いている。

〈言語についての知識・理解・技能〉

- ・句読点の打ち方や、「 」の使い方を理解して文章の中で使っている。

6. 単元の指導計画（全9時間 本時4/9）

次	時	学 習 活 動	評 価				
			関	書	言	評価規準	評価方法
一	1	○絵をもとに場面の様子を想像して、場面と場面とがつながるように物語を書くという学習課題を確かめる。	◎			・絵から場面の様子を想像して物語を作ることに興味を持ち、進んで取り組もうとしている。	行動観察 発言
二	2	○場面の様子を分かりやすく伝える物語の書き方を理解する。		◎		・話す順序や様子を伝える言葉など、分かりやすい説明の仕方を考えている。	行動観察 発言
	3	○物語の内容を決めて、②の場面を完成させる。		◎		・絵を見て想像したことをもとに、場面と場面とがつながるように物語を書いている。	行動観察 シート
	4 本時	○教科書P28の3枚の絵から、場面の様子や人物の行動、会話の内容などを想像する。		◎		・3枚の絵から、想像を広げ、場面と場面とがつながるように話の組み立てを考えて会話文を書いている。	行動観察 シート 付箋
	5 ・ 6	○3つの場面のつながりに気をつけて、想像を膨らませて物語を書く。		◎		・絵と吹き出しをもとに、場面の様子がよく分かるように、人物の行動や会話のつながりを考えて物語を書いている。	行動観察 シート
	7	○自分が書いた文章を読み返して、場面と場面がつながっているか、誤字脱字がないかなどを確かめる。			◎	・句読点の打ち方やかぎの使い方を理解して文章の中で使っている。	シート
	8	○完成した物語を友だちと読み合い、感想を伝え合う。		◎		・書いた物語を友だちと読み合い、人物の行動や会話、場面ごとのつながりを確かめている。	行動観察 発言
	三	9	○単元の学習を振り返り、分かったことやできるようになったことがんばったことなどをまとめる。		◎		・単元の学習を通して、分かったことやできるようになったこと、がんばったことを振り返っている。

7. 本時の学習

(1) 目標

- ・3枚の絵から想像を広げ、話の組み立てを考えて会話文を書くことができる。

(2) 評価規準

- ・3枚の絵から、想像を広げ、場面と場面とがつながるように話の組み立てを考えて会話文を書いている。

〈行動観察・ワークシート〉

(3) 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点	評価規準 評価方法
導 入	1. 前時の学習を振り返る。	○くまとりすの物語を完成させたことを想起させ、物語の書き方について振り返らせる。	
	2. 本時の課題をつかむ。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">3枚の絵をつなげるには、何がだいじかな？</div>			
展 開	3. 登場人物や場所の確認する。 ・誰が登場しているのか ・場所はどこか	○全体で簡単に確認する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">書</div> 3枚の絵から、想像を、場面と場面がつながるように話の組み立てを考えて会話文を書いている。 (行動観察・ワークシート)
	4. うさぎとりすがあひるのところに行ったわけを考え、発表する。	○何のためにあひるのところに行ったのかを考えさせることによって自分なりの場面設定をさせる。 ○3枚の絵から想像することが難しい児童には、助言し支援する。	
	5. 3つの場面がつながるように会話文をつくる。	○つながりを考えながら会話文を考えさせる。 ・2枚目と3枚目は、あひるとうさぎの会話を考える。 ○あひるの所に行ったわけと整合性のある会話文となるよう机間指導を通して意識付けを図る。	
	6. 会話文を読み合い、気をついたことをつたえ合う	○全体で発表しあい意見の交流を図る。 ※視点を提示する。 ・受け答えがきちんとした会話になっているか。 ・想像した場面の様子が分かる会話になっているか。	
ま と め	7. 学習をまとめる。		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">お話をつなげるには、行動(したこと)や会話のつながりを考えることがだい</div>		
	8. 次時の予告をする。	○物語を作ることを伝える。	

(4) 準備物

ワークシート 拡大した3枚の絵 吹き出し 前時までに使用した絵

(5) 板書計画

㊦	㊧	と	ひ	め	夕
絵を見てお話を作ろう					
3枚の絵をつなげるには、何がだいじかな？					
(とう場人物) うさぎ りす あひる					
(場しよ) 山池 野原					
うさぎとりすは、どうしてあひるの所に行ったのでしょうか？					
・二人でかくれんぼしてもおもしろくないからあひるをさそった。					
・うさぎが、あひるをりすにしようかいしよと思つた。					
・池の向こうの野原にあそびに行きたくてあひるにおねがいに行った。					
・相手と話したことにきちんと答える。					
・何をしたいのかきちんと伝えることがだいじ。					
・「はい」や「うん」などみじかい言葉では、話がつながらない。					
お話をつなげるには、行動(したこと)や会話のつながりを考 えることがだいじ。					